

2022年6月30日

アセットマネジメント One オルタナティブインベストメンツ株式会社

アセットマネジメント One オルタナティブインベストメンツの
フィデューシャリー・デューティーの実践に向けた
2021年度アクションプランの取組状況および2022年度アクションプランについて
～お客さま本位の業務運営の徹底～

アセットマネジメント One オルタナティブインベストメンツ株式会社（以下「当社」）はアセットマネジメント One グループの一員として、株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下「FG」）が定める『〈みずほ〉の企業理念』ならびに第一生命グループが定める『第一生命グループの理念体系』を踏まえた「アセットマネジメント One の企業理念」を採択しています。同企業理念において「お客さま信頼度 No.1」「最高水準の商品・サービスを提供」「グローバルトップレベルの資産運用会社へ」をビジョンとして定めており、当社は同ビジョンの実現に向けて高度な専門性に裏付けられた運用力を生かしてフィデューシャリー・デューティー^{*1}（以下「FD」）を全うすべく、お客さまの多様なニーズへの的確な対応や最高水準のソリューションを提供する取り組みを行ってまいります。

FGでは2016年2月に「〈みずほ〉のフィデューシャリー・デューティーに関する取組方針」（以下「取組方針」）を策定・公表しており、当社はこの取組方針を採択するとともに、取組方針に基づいた当社の機能である「運用・商品開発機能」に応じたアクションプラン（以下「アクションプラン」）を策定して取組状況を公表しています。

この度2021年度アクションプランの取組状況および2022年度アクションプランについて以下の通り公表いたします。

- 運用・商品開発機能
 - I. 2021年度アクションプランの取組状況
 - II. 2022年度アクションプラン
- グループ管理方針

なお当社は金融庁が2017年3月30日に公表し、2021年1月15日に改訂した「顧客本位の業務運営に関する原則」の7つの原則全てについて採択をしています。

（以下の当社アクションプランとその取組状況について当該原則2～7に該当する箇所原則番号を記載しています。）

^{*1} 他者の信認に応えるべく一定の任務を遂行する者が負うべき幅広い様々な役割・責任の総称

運用・商品開発機能

I. 2021 年度アクションプランの取組状況

当社はアセットマネジメント One グループの一員として、またオルタナティブ投資のゲートキーパーおよびインフラデットファンドの運用を営む資産運用会社として、年金基金や金融機関などの機関投資家の方々を対象に今後もお客さまの立場に立った施策を実践してまいります。

当社が取組方針に基づき設定した運用・商品開発機能に関する 2021 年度アクションプランの取組状況について、お客さま本位の業務運営の状況を確認するための定量指標（KPI）を含め掲載いたします。

【アクションプラン項目】

1. 運用の高度化
2. 商品品質の向上とお客さまニーズを捉えた商品開発に向けた不断の取り組み
3. お客さまの立場に立った情報提供やサービスの充実
4. ガバナンス強化

運用・商品開発

FD 実践

お客さま等の
支持・評価

成果

FD の実践

1. 運用の高度化

アクションプラン

- お客さまへ持続的に高い付加価値を提供するため、運用専門人材の採用や戦略的育成を行い、投資判断と分析力の高度化を推進します。【原則 2】
- お客さまへの付加価値提供に対する強いコミットメントの結果を公正・厳格に評価する仕組を適正に運営することで、専門人材がより一層の付加価値提供に邁進できる環境を維持します。【原則 7】
- お客さまの資産運用ニーズに対する最適なソリューションを提供するため、運用高度化に資する取り組みを推進します。【原則 6】

アクションプランの取組状況

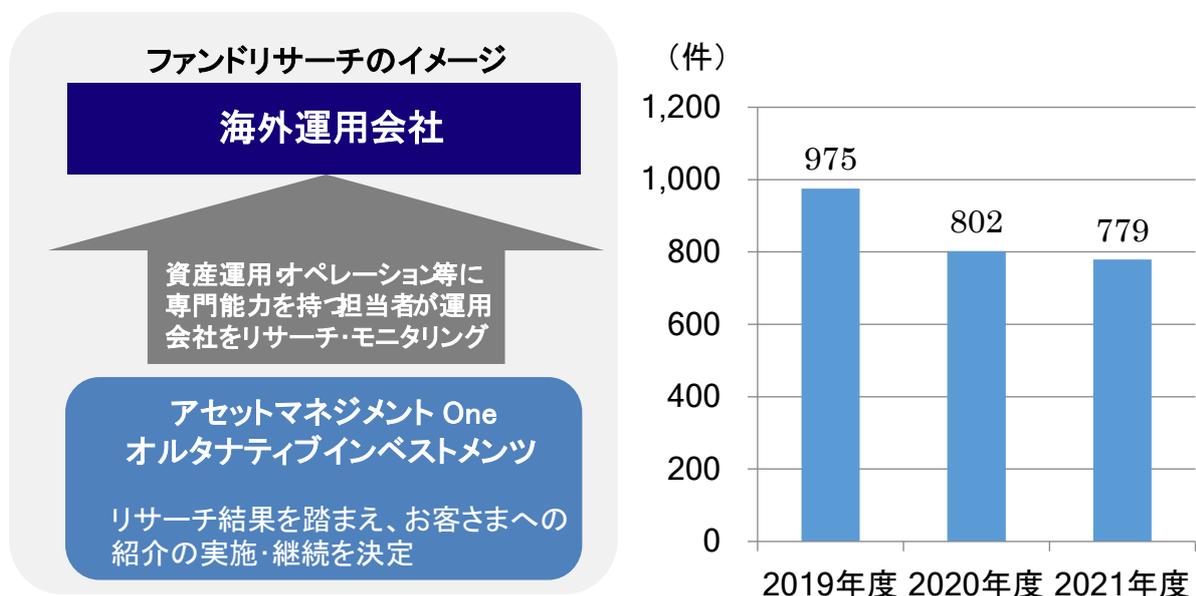
- 資産運用においてお客さまに高い付加価値のあるサービスを提供するには運用に係る専門人材に高度な知識と経験を有するプロフェッショナルが欠かせません。当社では社内で中堅や若手社員の育成に注力するとともに、外部からも優秀な人材を確保すべく常に採用活動を実施しております。2021 年度においては業務の持続可能性を考慮しつつ人材ポートフォリオの適切な構築を意識した採用に注力し、若手から経験豊富なシニアまで幅広い人材を確保して当社業務の高度化と安定化に貢献しています。今後も運用会社としてお客さまの信頼に応えるために専門人材の採用、育成に努めてまいります。【原則 2】
- また当社ではこうした人材の業務上の活動実績が公正に評価できる目標管理と実績評価の仕組みを構築していますが、それらをさらに高度化することを目指して人事制度の見直しに着手しています。見直しに当たっては外部の専門的なノウハウを有する機関も活用し、制度の構築とそれを適正に運営することで従業員に対するより適切な動機づけやガバナンス体制の整備を目指します。【原則 7】
- 当社では機関投資家であるお客さまの資産運用ニーズに対する最適なソリューションを提供することを目指し、市場環境やお客さまの資産運用に係る様々な状況を把握、理解して適切な運用商品をご提供することを心がけています。
- ゲート・キーピング業務においては主に海外運用会社・ファンドに対する運用・オペレーション等に関する詳細なリサーチに基づく優良な投資先の発掘が欠かせません。そのため当社では運用プロセスの改善とともに、ファンドに対する深度ある調査を行うことを重点的に実施しています。【原則 2】【原則 6】
- 当該リサーチはお客さまに対する適切なソリューションの提供はもとよりの確でタイムリーな情報の提供につながることから、ファンドリサーチ件数を KPI として採用しています。新型コロナウイルス感染状況拡大の影響を受け 2019 年度第 4 四半期から出張をひかえましたのでファンドリサーチ件数は大きな影響を受けましたが、こうした環境下にもかかわらず当社ではファンドリサーチの継続を重要課題ととらえ、Web を活用したミーティングを活用しながらその内容を工夫することで現地訪問を補うことのできる深度ある調査を精力的に実施しました。その結果件数としては前年度の 97%にあたる 779 件のリサーチ件数実績となりましたが、Web ミーティングの経験の積み重ねにより 1 回ごとのリサーチ内容の充実化を図った結果これまで同様の深度ある調査実績を挙げる事ができています。引き続き当社の強みである高い専門性を活かし、お客さまに最適な運用商品・ソリューションを提供してまいります。
- 一方インフラデットファンドの運用においてはお客さまのニーズが高い高付加価値プロダクトの提供を目指して、欧州 SFDR の 8 条ファンド^{*2}認定の取得やエクエーター原則^{*3}の採択を行う等 ESG・SDGs への取組みを強化しました。当社はインフラデットファンドの運用を通じて引き続き ESG・SDGs の促進に貢献していく所存

です。

*² 2021年3月10日に施行された欧州サステナブルファイナンス開示規制（SFDR）の下で環境・社会的特性を促進するファンドとして分類されたものです。

*³ エクエーター原則は民間金融機関が大規模なプロジェクトに融資を実施する場合に、プロジェクトが自然環境や地域社会に与える影響に十分配慮して実施されることを確認するための自主的な枠組みです。2021年10月末現在世界で126の金融機関がエクエーター原則を採択しています。

【KPI 項目】 ファンドリサーチ件数



2. 商品品質の向上とお客さまニーズを捉えた商品開発に向けた不断の取り組み

アクションプラン

- 商品の適切なリスク管理やモニタリング、長期保有ニーズをはじめとするお客さまの高いニーズに対応した商品を中心に、継続的な商品品質向上、商品開発に努めます。【原則2】 【原則6】
- 透明性の高い運用報酬、手数料を設定し、適切なコスト水準の商品組成を行います。【原則4】

アクションプランの取組状況

- 年金基金や金融法人等のお客さまの長期投資ニーズを踏まえ、当社が選定したヘッジファンドを組み入れるお客さま向け SMA^{*4}や、複数のヘッジファンドに投資するファンド・オブ・ヘッジファンズを設定してご提供してきました。特に非伝統的アクティブ運用によるアルファ追求を主眼とした個別ファンドの選定はお客さまからの高い評価を獲得しています。2021 年度においてはファンド・オブ・ヘッジファンズで新たなクラスの設定を行うなどお客さまのニーズにより一層お応えできるよう商品ラインアップの充実に努めました。【原則 2】【原則 6】

^{*4} Separate Managed Account : 個別のお客さま向けの独立した投資口座

- プライベート投資の分野においても高度化するお客さまのニーズにお応えするためにヘッジファンドと同様、お客さまのそれぞれ異なるニーズにきめ細かく対応したカスタマイズ型の SMA のご提供に注力した結果、高い評価を獲得し新規契約につなげることができました。【原則 2】【原則 6】
- またインフラデットファンドの運用においては、お客さまの長期投資ニーズを踏まえ「エッセンシャルティ（Essentiality）」を投資哲学として国や地域社会に必要なインフラ事業へ融資を行うファンドの第 3 号ファンド「Cosmic Blue PF Magnolia FCP-RAIF」を立ち上げて運用していますが、商品性に対する評価を得て新たな投資家からの資金を獲得するとともに、広く海外の投資家に向けたアプローチの準備も開始しました。【原則 2】
- 引き続き当社の長期にわたる投資に対するリスク管理・モニタリング能力を活用し、お客さまそれぞれの状況や環境、運用目的にかなった多様な投資機会を提供すべく新たな商品開発を進めてまいります。
- 当社では投資いただくお客さまに交付する重要事項説明書等において手数料その他の費用について詳細な開示を行っています。【原則 4】

3. お客さまの立場に立った情報提供やサービスの充実**アクションプラン**

- 市場環境変化に伴う、多様化する機関投資家のお客さまニーズに対し、タイムリーな金融市場情報の提供を実施します。【原則 5】

アクションプランの取組状況

- 当社のお客さまである機関投資家の方々にとって分かりやすい資料をご提供でき

るよう、商品の説明資料では図やグラフ、説明文の内容をたえず工夫、改善することによって重要な事項が把握しやすく、また誤解されることがないようにしてお客さまの理解を促進できる資料作りに努めました。

- ・ 特に2021年度においてはコロナ禍の環境を踏まえてWebを通じた運用結果のご報告やマーケットについてのタイムリーかつ丁寧な情報提供を行うように努めました。【原則5】
- ・ またインフラデットファンドの運用において、投融資が創出する社会に対する良いインパクトの評価及びマネジメントを推進する動きの活発化を受けて、投資対象のインフラが創出する社会に対する良いインパクトについて定性的・定量的な評価を行いお客さまに情報提供することを継続しています。こうした取り組みの継続はESG・SDGsの推進にも貢献していると考えています。【原則5】

4. ガバナンス強化

アクションプラン

- 取締役会をはじめとする経営政策に係る委員会におけるガバナンス態勢の機能により、グループ会社との間の適切な経営の独立性を確保・維持します。【原則2】 【原則3】

アクションプランの取組状況

- ・ 当社ではお客さまの利益を第一に考え、お客さま本位の業務運営の更なる向上のため利益相反管理の高度化を進めておりますが、その一環としてアセットマネジメントOne やみずほ銀行などのグループ会社との関係において利益相反管理の対象となる取引を明確化し、管理する仕組みを構築し運営することによって適切な経営の独立性を確保・維持するように努めています。【原則3】
- ・ またお客さまに対して誠実、公正に業務を遂行し、お客さまの利益を第一とする企業文化を維持、継承するために社員に対する研修等を通じて意識の醸成をはかるとともに、適切な動機づけの一環としてフィデューシャリー・デューティーの実践を含むコンプライアンス遵守の行動が社員個人の人事評価に反映する体制をとることで適切なガバナンス態勢の構築に努めています。【原則2】

お客さま等の支持・評価

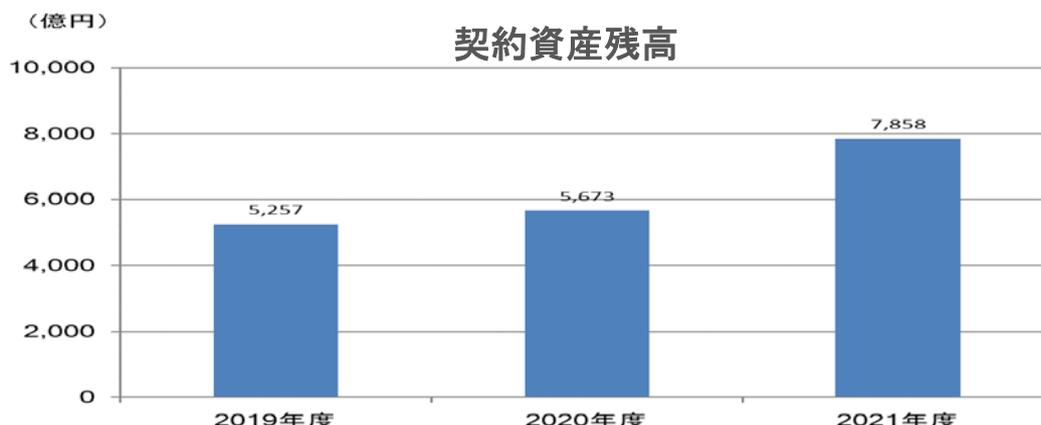
- ・ 当社はオルタナティブ投資のゲートキーパーとして投資家の目線に立った取扱いファンド選定や投資判断の提供と、本邦初となる海外プロジェクトファイナンスのシニアローンを主な投資対象とするインフラデットファンドの運用を通じ、常にお客さまのニーズに寄り添う運用サービスの提供を行い、お客さまからのご支持をいただけるよう心がけています。
- ・ 厳しい商品選定プロセスが必要な金融法人や年金基金等の機関投資家を中心にいただいたお客さまのご支持により、2021年度においても順調な契約資産残高・投資家数の増加に結びつきました。

成果

- ・ 中長期でリターンを生み出し、お客さまに信頼される商品の提供など、真にお客さまが満足する商品・サービスを提供し続けることがお客さまからの支持・評価に繋がり、結果としてお客さまからの預り資産が増加するものと考えています。
- ・ お客さまからの支持・評価の表れである成果として、契約資産残高をKPIとして設定し公表しています。

【KPI 項目】 契約資産残高

- ・ お客さまの中長期的な資産形成に資することを目指し、お客さまの資産価値の時価変動も含めた契約資産の時価残高を指標として採用しました。
- ・ 2021年度は市場環境の変化が激しくオルタナティブ投資にとっても厳しい環境ではありましたが、お客さまのニーズに沿った商品をご提供することで残高の増加につなげることができました。（なお2021年度はグループ内の事業再編により当社の契約資産残高の積み増しがありましたが、その影響を除いた数字（6,371億円）においても残高の増加を達成できています。）



II. 2022年度アクションプラン

【アクションプラン項目】

1. 運用の高度化
2. 商品品質の向上とお客さまニーズを捉えた商品開発に向けた不断の取り組み
3. お客さまの立場に立った情報提供やサービスの充実
4. ガバナンス強化

1. 運用の高度化

アクションプラン

- お客さまへ持続的に高い付加価値を提供するため、運用専門人材の採用や戦略的育成を行い、投資判断と分析力の高度化を推進します。【原則 2】
- お客さまへの付加価値提供に対する強いコミットメントの結果を公正・厳格に評価する仕組みを適正に運営することで、専門人材がより一層の付加価値提供に邁進できる環境を維持します。【原則 7】
- お客さまの資産運用ニーズに対する最適なソリューションを提供するため、運用高度化に資する取り組みを推進します。【原則 6】

2. 商品品質の向上とお客さまニーズを捉えた商品開発に向けた不断の取り組み

アクションプラン

- 商品の適切なリスク管理やモニタリング、長期保有ニーズをはじめとするお客さまの高いニーズに対応した商品を中心に、継続的な商品品質向上、商品開発に努めます。【原則 2】 【原則 6】
- 透明性の高い運用報酬、手数料を設定し、適切なコスト水準の商品組成を行います。【原則 4】

3. お客さまの立場に立った情報提供やサービスの充実

アクションプラン

- 市場環境変化に伴う、多様化する機関投資家のお客さまニーズに対し、タイムリーな金融市場情報の提供を実施します。【原則 5】

4. ガバナンス強化

アクションプラン

- 取締役会をはじめとする経営政策に係る委員会におけるガバナンス態勢の機能により、グループ会社との間の適切な経営の独立性を確保・維持します。【原則2】 【原則3】

グループ管理方針

当社はアセットマネジメント One グループの一員として、またオルタナティブ投資のゲートキーパーおよびインフラデットファンドの運用を営む資産運用会社として、今後もお客さまの立場に立った施策を実践してまいります。

グループ横断での取り組みが中心であるグループ管理方針に関する 2021 年度アクションプランの取組状況および 2022 年度アクションプランについては、FG より公表を行っております^{*5}。

^{*5} <みずほ>のフィデューシャリー・デューティーに関する取り組み

(URL) https://www.mizuho-fg.co.jp/release/pdf/20220630release_jp.pdf

- ・ 本記載は投資勧誘や特定銘柄を推奨するものではありません。
- ・ 掲載のファンドがお客さまの投資目的、リスク許容度に必ずしも合致するものではありません。また今後の運用成果を予想または示唆するものではありません。

以 上